中学３年　国語科　教材別テスト⑪「初恋」　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　島崎藤村「初恋」（光村図書『国語３』）

【このテストの使い方】

大問四は、**教科書『国語３』の「初恋」のページを開いたまま**解答します（問題用紙には参考として詩の全文も載せてあります。島崎藤村「初恋」は著作権の保護期間が満了した作品です）。「初恋」は**文語定型詩**で、**七五調**の整った律と文語のひびきが大きな味わいになっています。そのため、知識面では**詩の形式・音数律・歴史的仮名遣い・文語の助動詞**を、読解面では**四つの連の流れ**と**林檎の象徴性**、そして最終行「こひしけれ」の読み取りを中心に出題しています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	文語定型詩の形式と歴史的仮名遣い（詩の四分類・音数律・連・文語の助動詞・古語）	２点×９＝18点
	三	表現技法と文学史（比喩・擬人法・倒置・反復・体言止め／島崎藤村と『若菜集』）	２点×６＝12点
思考・判断・表現 50点	四	「初恋」（島崎藤村）の読解（12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　詩を**文語／口語**と**定型／自由**の二つの軸で四分類し、「初恋」を**文語定型詩**と位置づけられるか。

②　**七五調**という音数律と**四つの連**という構成に気づき、形式が内容と結びついていることを説明できるか。

③　**歴史的仮名遣い**（ひ→い・づ→ず・ふ→う・ゑ→え）を現代仮名遣いに直し、文語の助動詞「けり」「き（→し）」を見分けられるか。

④　くり返される「**薄紅の秋の実**」（**林檎**）が、二人の初恋そのものを表す**象徴**になっていることを読み取れるか。

⑤　最終行「**こひしけれ**」に、少女のわざとらしい問いかけさえいとおしく思う**甘美な恋の心**が結ばれていることを言葉にできるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	かんけつ	⑪	象徴
②	れんぼ	⑫	韻律
③	じょじょう	⑬	余韻
④	ろうえい	⑭	光景
⑤	せんさい	⑮	清純
⑥	けいふ	⑯	優雅
⑦	ろうまん	⑰	陶酔
⑧	め（でる）	⑱	郷愁
⑨	した（う）	⑲	快い
⑩	いろど（る）	⑳	麗しい

小計　20点

【注意したい字】

③「叙情」の「叙」を「叔」と書かない。読みも「じょじょう」で、「じょうじょう」とのばさない。⑥「系譜」は「けいふ」。「けいぶ」と濁らせる誤りが多い。⑦「浪漫」は「ロマン」の当て字で、読みは「ろうまん」。⑧⑨⑩⑲⑳は送りがなまで必要（「愛でる」「慕う」「彩る」「快い」「麗しい」）。⑪「象徴」の「徴」は、ぎょうにんべん＋「山」「王」＋ぼくづくり。「懲」「微」と混同しやすい。⑫「韻律」の「韻」は音へん、「律」はぎょうにんべん。「音律」と書かない。⑬「余韻」の「韻」は音へん。⑰「陶酔」の「陶」はこざとへん。⑲「快い」は「こころよい」。「快よい」と送らない。⑳「麗しい」の送りがなは「しい」から。

二　文語定型詩の形式と歴史的仮名遣い　（2点×9＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**イ（文語定型詩）**	詩は「文語か口語か」×「定型か自由か」で四つに分けられる。「初恋」は**昔の書き言葉（文語）**で書かれ、しかも**七音＋五音**という音数のきまりをもつので**文語定型詩**。
(2)	**ウ**	口語自由詩＝今の話し言葉で書かれ、音数のきまりをもたない詩。現代の詩の多くはこれ。ア（四行）・エ（季語）は詩の分類の説明ではなく、イ（漢字だけ）も誤り。
(3)	**七五調**	「まだあげ初めし（七）／前髪の（五）」のように、**七音→五音**の順でくり返される。逆に五音→七音の順なら**五七調**。「七五調」と漢字三字で書けていれば正答。
(4)	**四（連）**	詩のまとまりを**連（聯）**という。「初恋」は四行ずつ、全部で**四連**。「4」とアラビア数字で書いたものも、数が合っていれば正答とする。
(5)	**ウ（過去・詠嘆）**	文語の助動詞「**けり**」は**過去**や**詠嘆（〜だなあ）**を表す。「花ある君と思ひけり」＝「花のような人だと思ったのだ（なあ）」。
(6)	**ア（き）**	「あげ初め**し**」「あたへ**し**」の「し」は、**過去**の助動詞「**き**」の連体形。イ「ぬ」は完了、ウ「たり」・エ「り」は完了・存続。
(7)	**①おもいけり** **②おのずから**	語の中・終わりの「**ひ**」は「**い**」に、「**づ**」は「**ず**」に直す。**①②の両方できて2点（完答）**。漢字を混ぜて「思いけり」と書いたものも、仮名の直し方が正しければ正答とする。
(8)	**①たまう** **②ゆえ**	語の中・終わりの「**ふ**」は「**う**」に、「**ゑ**」は「**え**」に直す。**①②の両方できて2点（完答）**。①を「たもう」と書いたものは、仮名遣いの直し方としては誤りなので×。
(9)	**ア（〜なさる＝尊敬）**	「たまふ」は**尊敬**の意味を添える語。「問ひたまふ」＝「お尋ねになる」。相手の少女を敬い、やわらかに描く働きをしている。

小計　18点

三　表現技法と文学史　（２点× 6 ＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**イ（隠喩・暗喩）**	「〜のようだ」を**使う**のが**直喩（明喩）**、**使わない**のが**隠喩（暗喩）**。「花ある君」のように、たとえの言葉を省いて重ねる言い方が隠喩。
(2)	**①ウ　②エ　③カ**	①人でないものを人のように表すので**擬人法**。②ふつうの語順（あの日の林檎畠は美しい）を入れかえているので**倒置**。③名詞（体言）で言い終わっているので**体言止め**。**①②③の三つそろって２点（完答）**。
(3)	**反復**	同じ言葉・似た言葉のくり返し。「初恋」でも「初めし」「林檎」がくり返され、調子と印象を強めている。「くり返し」とひらがなで書いたものは、漢字二字の指定に合わないので×。
(4)	**イ**	島崎藤村（1872〜1943）は**明治から昭和**にかけて活躍した**詩人・小説家**。詩人として出発し、のちに小説に移った。
(5)	**ア**	**『若菜集』**は**明治三十年（1897年）**刊の藤村の**第一詩集**。**浪漫（ロマン）主義**の近代詩の出発点とされる。イは刊行時期が誤り。ウ『落梅集』は『若菜集』より後（明治三十四年）の詩集、エ『家』は詩集ではなく**小説**なので、ウ・エも誤り。
(6)	**ア**	藤村はのちに**自然主義**の小説**『破戒』『夜明け前』**を書いた。同じ時期の詩人には**土井晩翠・北村透谷**らがいる。イの『坊っちゃん』『草枕』は夏目漱石、エの『羅生門』『鼻』は芥川龍之介の作品。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【歴史的仮名遣いを直すコツ】

①　**語の初め以外**の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直す（思**ひ**→思**い**／たま**ふ**→たま**う**）。② 「**ゐ・ゑ**」は「**い・え**」に（ゆ**ゑ**→ゆ**え**）。③ 「**ぢ・づ**」は「**じ・ず**」に（おの**づ**から→おの**ず**から）。④ 「**む**」は「**ん**」に。⑤ 「au→ô」「iu→yû」などの長音化（やうやう→ようよう）は、**直し方が一通りに決まらない語もある**ので、テストでは①〜④のような基本の型をまず確実にすること。

四　「初恋」（島崎藤村）の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**ア**	第一連は**出会い**の場面。林檎の木の下に現れた少女の、花櫛をさした姿を見て「花ある君」と感じている。イ「売っている」・ウ「別れ」・エ「手紙」はいずれも詩に書かれていない。
(2) 3 点	**イ**	「あげ初めし」＝髪を結い上げ**始めたばかり**。当時、少女は年ごろになると髪を結い上げた。**子どもから大人になりかけた年齢**と、その**あどけなさ・初々しさ**を同時に暗示する表現。
(3) 3 点	**ウ**	花櫛の「花」から少女自身の美しさへと意味が重なり、「君＝花」という**隠喩**になっている。「花をもっている人」という字づらだけの理解では不十分。
(4) 4 点	**イ**	「人こひ初めしはじめなり」＝「人を恋し始めた、その始まりであった」。林檎を受け取ったその瞬間が**恋の自覚**の瞬間だったと、後からふり返って告げている。
(5) 3 点	**やさしく白き手をのべて** **（11字）**	書き抜きなので、**一字一句そのまま**であること。「やさしく白き手」（七字）だけのもの、現代語に直したものは×。文語の仮名のまま写せているかを確認する。
(6) 4 点	**ウ**	第三連は、「われ」のためいきが少女の髪にかかるほど**寄り添っている**場面。「たのしき恋の盃」という表現が、**酒に酔うような甘く満ち足りた時間**を表している。ア・イ・エのような緊張や悲しみはない。
(7) 3 点	**イ**	「おのづから」＝**自然に・ひとりでに**。誰かが作ったのではなく、**二人が通い続けたあとが道になった**。この「道」が、二人の過ごした時間の長さの証しになっている。
(8) 3 点	**イ**	第一連＝**出会い**／第二連＝**恋の自覚**／第三連＝**親密**／第四連＝**思い出（ふり返り）**。四連が時間の流れに沿って並び、初恋の一部始終がたどれる構成になっている。

四　「初恋」（島崎藤村）の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(9) 5 点	**（例）薄紅の林檎が、二人の間に育っていく初恋そのものを表していること。(32字)**	「林檎が初恋（二人の恋）を表す＝象徴である」（３点）＋「薄紅という色や実の印象が、初恋の初々しさ・甘やかさと重なる」（２点）で採点。 「林檎はおいしそうだということ」のように**物としての説明だけ**のものは０点。「～こと。」の形で結べていないものは－１点。
(10) 6 点	**（例）細道の由来を知りながらわざと尋ねる少女がいとおしく、恋の甘さをしみじみ味わう気持ち。(42字)**	「少女が、わかっていながらわざと尋ねてみせている」（３点）＋「そのしぐさがいとおしく、恋が甘美に感じられる」（３点）で採点。 「こひしけれ」は「恋しい」の**已然形**で、「こそ～けれ」の形で**強調**されている。少女を責める気持ち・悲しむ気持ちと読んだものは０点。「～気持ち。」の形で結べていないものは－１点。**この詩の最大の読みどころ。**
(11) 6 点	**（例）林檎の木の下で芽生えた初恋の、あまやかな喜びといとおしさ。(29字)**	「初恋」という語（２点）＋「**林檎畠（林檎の木の下）という場**」または「**出会いから思い出まで**」（２点）＋「**あまやかさ・いとおしさ・喜び**といった心情語」（２点）で採点。 あらすじをなぞっただけのものは最大２点。二十五～四十字から外れたら－１点。

四　「初恋」（島崎藤村）の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(12) 6 点	**（例）文語の古風で整った響きが、初恋の初々しさを現実から離れた美しい思い出として感じさせる効果がある。（48字）**	【ルーブリック】 Ａ（６点）…**文語の特徴**（古風・格調・雅な響き・七五調との調和）を挙げ、**作品にどう働くか**（美化される／思い出として遠く感じる／初々しさが際立つ など）まで書けている。 Ｂ（４点）…文語の特徴は挙げられているが、作品への働きが一般論どまり（例「きれいに感じる」）。 Ｃ（２点）…「昔の言葉だから古い感じがする」など、**印象のみ**。 Ｄ（０点）…「読みにくい」など**効果になっていない**もの、無答。 ※四十～五十字から外れたら－１点。自分の考えであれば、上の例と内容が異なってもＡ基準を満たせば満点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ）】

1. 「初恋」は**文語自由詩ではなく文語定型詩**。**七五調**という音数のきまりがあることが決め手。
2. 「まだあげ初めし前髪」は髪型の説明ではなく、**少女の年齢とあどけなさ**を暗示する表現。
3. 「花ある君」は**隠喩**。「花をもっている人」と字づらだけで読むと意味を取りそこなう。
4. 第二連の「人こひ初めしはじめなり」が**恋の自覚**の宣言。林檎を受け取った瞬間が、恋の始まりとして語られている。
5. 「薄紅の秋の実」（林檎）は、ただの果物ではなく**初恋そのものの象徴**。くり返されていることに意味がある。
6. 第四連の「おのづからなる細道」は**二人が通い続けた跡**。「自然」という語を「もともとあった道」と取りちがえない。
7. 最終行「**こひしけれ**」は「恋しい」の已然形で、「**こそ～けれ**」の係り結びによる**強調**。少女のわざとらしい問いかけさえ**いとおしい**という、甘美な結びである。
8. 四つの連は**出会い→恋の自覚→親密→思い出**という時間の流れ。連ごとに場面が変わることを押さえると、設問の多くが解ける。